

はじめに、第1の柱

『多様で活力ある産業づくり』についてであります。

産業振興につきましては、市政発展の重要課題と位置づけ、積極的に取り組んでまいります。

山陰道の開通などの環境の変化をチャンスと捉え、市内商工団体など関係機関と連携して経営安定に向けた支援に取り組むとともに、起業・創業にかかる支援を拡充し、本市の豊かな地域資源を活用した商品開発や市外への販路開拓に対する補助など、積極的な事業展開を図る事業者等を支援してまいります。

道の駅「ごいせ仁摩」につきましては、本市の豊富な観光資源や「大田の大あなご」をはじめとした食や特産品、伝統芸能「石見神楽」などの魅力を発信し、観光誘客・交流人口の拡大や地域の活性化を図る拠点として、市内外問わず多くの皆さまにご利用いただいております、利用者数は増加傾向にあります。

石見銀山遺跡の世界遺産登録20周年、石見銀山発見500年も目前に迫り、多くの観光客の来訪が見込まれる中、その玄関口となる道の駅の役割は、より重要となるため、多くの皆さまに訪れていただける道の駅となるよう、指定管理者や市内事業者と連携した取り組みを進めてまいります。

「大田の大あなご」につきましては、令和元年度にブランド化の取り組みを開始し、市内の提供店舗数や消費量の増加、取引価格の上昇など大きな成果が現れています。様々なメディアで「大田の大あなご」が紹介される機会が増えており、全国的な認知度も高まってきています。

商工会議所等の関係機関と共にブランド価値を高め、さらなる消費拡大や地域経済の活性化に繋げてまいります。

観光につきましては、国内旅行客が緩やかな回復をみせ、訪日外国人旅行客が増

加傾向にある中、本市が誇る文化や歴史、自然を感じる体験型旅行への観光需要の高まりを取り込み、観光消費額を増加させるなど、市内の経済循環にこだわり、来訪者に「また来たい」と選ばれ続ける観光地を目指し、取り組みを進めてまいります。

三瓶地域では、現在進められつつある、特色ある地域資源を活用する民間事業者間の連携を促進するとともに、三瓶温泉の安定供給に努め、地域全体としての観光地域づくりに取り組んでまいります。

石見銀山地域では、昨年10月からJR西日本の**豪華寝台列車「TWILIGHT EXPRESS(トワイライトエクスプレス)瑞風」**の立ち寄りが始まっており、乗客の皆さまに高い評価をいただいています。

石見銀山地域を訪れる皆さまに楽しんでいただけるよう、地域と連携し、おもてなしに取り組んでまいります。

温泉津地域では、民間事業者が連携して取り組まれた温泉津温泉街の魅力向上により、旅行客からの評価が高まっています。その効果が十分に発揮されるよう、地域と連携して誘客に努めてまいります。

日本遺産「神々や鬼たちが躍動する神話の世界」につきましては、今年度で認定期間が終了となるため、新年度以降も継続して文化庁の認定を受けることができるよう、共同申請した石見9市町や島根県、島根県観光連盟などと連携し、観光誘客を強化してまいります。

「石見の火山が伝える悠久の歴史」につきましては、新年度に認定期間の最終年度を迎えます。こちらでも継続認定を受けるため、火山活動にまつわる22の構成文化財の周遊促進を図るとともに、地域による活用を支援し、さらなる地域活性化に努めてまいります。

農林水産業につきましては、大田市総合計画に基づき「稼ぐ農林水産業」の推進による、一次生産者の所得向上を図る取り組みを進めてまいります。

農業につきましては、農地整備事業を契機とした農業経営の複合化を推進するとともに、スマート農業技術の活用による省力化と生産者の負担軽減を図り、産地としての競争力を高めてまいります。

産地化を進める白ネギ、アスパラガス、ミニトマト、キャベツ等について、生産基盤の強化に向けた取り組みを支援するとともに、大手ECサイトとの連携で拡大した販路を通じて、大田市産農産物の認知度向上や生産者の所得向上を図ってまいります。

有機農業の推進につきましては、メーカーと連携した有機米の栽培実証が進んでいるほか、企業参入による有機野菜の栽培が開始されます。こうした取り組みを通じて、特色ある産地づくりの支援や、地域資源である畜産堆肥を活用した循環型農業の推進などの取り組みを進めてまいります。

畜産業につきましては、市内養鶏場で昨年発生した高病原性鳥インフルエンザに関して、再発防止や農場の再建などに向けて関係機関と連携して取り組んでまいります。

石見銀山和牛につきましては、昨年開催された島根県種畜共進会において、グラントチャンピオンを獲得したことを追い風に、令和9年に開催される全国和牛能力共進会に向けて、関係機関と共に種牛（しゅぎゅう）能力の向上に取り組み、当地域の特色を活かした産地づくりを図ってまいります。

国際情勢等により、飼料価格など生産コストが高騰していますので、自給飼料の確保に対する取り組みを進めてまいります。

農業の担い手の確保・育成につきましては、認定農業者等、地域の中核的な担い手の育成や後継者の確保に向け、収益力を高める支援の強化や、就農促進の仕組み

づくりのほか、国・県の制度を活用した設備投資へ支援してまいります。

生産基盤の整備につきましては、集落ごとに策定を進める地域計画に基づく担い手への農地集積や、高収益作物の導入に積極的に取り組む農地整備事業を優先的に実施するとともに、ため池や排水施設の改修、防災・減災対策による安定した生産基盤の確保を図ってまいります。

また、地域共同による地域資源の保全など、多様な取り組みによる集落機能の強化について、支援してまいります。

有害鳥獣対策につきましては、近年、生息範囲が拡大しているニホンザルやニホンジカ対策として、固体数の調整や防除指導役となる実施隊員の増員及び体制強化を図るほか、ドローン技術による生息実態把握調査を行い、防除対策の拡充を図ってまいります。

林業・木材産業では、デジタル化技術の活用により得られる森林資源や地形の詳細な情報をもとに、森林境界の明確化と森林の集約化を強力に進めてまいります。

また、森林環境譲与税を活用した路網整備などにより、効率的に原木の増産を図るとともに、製材設備の導入支援や市産木材の利用促進により、循環型林業を推進し、林業・木材産業の成長産業化の実現を目指してまいります。

水産業につきましては、漁具や漁船などの整備にかかる新規就業者の初期投資の軽減及び漁業への定着を図るための給付金制度などの支援を継続するとともに、所得向上に繋がる取り組みを支援し、沿岸の自営漁業者が安定した経営を実現できる環境を整えてまいります。

また、和江漁港を中心とした市場機能の効率化や、漁船が水揚げしやすい漁港環境整備に向け、漁業者をはじめ関係機関と連携して取り組んでまいります。

企業誘致につきましては、テレワークなどの多様な働き方の普及により、本市に

においても、I T系人材の移住が進んでいるほか、昨年2月に民間事業者への支援により整備したサテライトオフィスに4社の入居があるなど、企業の地方進出や、転職なき移住をはじめとする働き方に関する意識や行動の変化が見られます。

新たな企業や人の流れが生まれていることを好機と捉え、より一層、I T系企業・人材の誘致に取り組んでまいります。

人財の育成につきましては、意欲のある企業の若手後継者・経営者、起業・創業希望者を対象に、「おおだ未来創造塾」を開催し、第一線で活躍する経営者や専門家から、今後のビジネスモデルや新事業の創出方法等を学ぶとともに、異業種交流を深めることで、将来の地域経済を牽引する人財を育成してまいります。

人財の確保につきましては、全国的に有効求人倍率が高水準で推移する中、本市においても、少子高齢化や人口減少等により市内企業の労働力不足が続いています。

高校生の地元就職や若者のU・Iターン就職の促進を図るとともに、小・中学生に対して市内企業の魅力を伝える取り組みを強化し、人財の確保に繋げてまいります。